

みんなくりポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

SER no.081; Cover, contents, and others

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2010-03-23 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10502/3967

Senri Ethnological Reports

81

SEIR 81

国立民族学博物館

調査報告

81

An Anthropology of the Street
Volume 2

ストリートの人類学

下巻

関根康正

編

ストリートの人類学 下巻

Edited by

Yasumasa Sekine

関根康正 編

National Museum of Ethnology
Osaka 2009

ISSN 1340-6787
ISBN 978-4-901906-62-0 C3039



国立民族学博物館 2009

国立民族学博物館 調査報告

81

ストリートの人類学 下巻

関根康正 編

国立民族学博物館

2009

目 次

■ 下 卷 (SER 81)

第3部 歴史の中のストリートとトランスローカリティ

歴史と記憶を生きる眼差しから見る現代の場所性

[歴史の中のストリート概念の変遷——近代を相対化する深い場所 (垂直性)]

- 第19章 ストリートとコミュニティ
——博多の事例から考える…………… 竹沢尚一郎 3
- 第20章 変容する社会的アリーナとしての中世ヨーロッパのストリート
…………… ハラルド・クラインシュミット 29
- 第21章 北京の小さな橋——街角のグローバル・ヒストリー …… 妹尾達彦 95

[変容するローカルな場所性とせめぎ合う眼差し——記憶と現在の間]

- 第22章 青果物卸売市場の「いま」と「あの頃」
——新潟県長岡市の地方卸売市場における「場所性」の変容を焦点として
…………… 鈴木晋介 185
- 第23章 ローカリティのあらわれの場としてのストリート
——南ドイツにおける樹木儀礼の事例から…………… 山田香織 213
- 第24章 オーストラリア・トレス海峡の2つの海
——先住民族の「場所性」と主流社会の「正当性」…………… 松本博之 231
- 第25章 ストリートとストリーム
——ポリネシアでストリート現象を考えるための覚書…………… 棚橋 訓 261

トランスナショナル・フローとローカリティの組み換え的創造

[構築される移民空間のローカリティとストリート性]

- 第26章 パッケージ化と脱パッケージ化との間での生きる場の創造,
あるいは「組み換えのローカリティ」
——「資本としての知識」から「資源としての知識」への
視点の移行がもたらすもの…………… 関根康正 271
- 第27章 チャイナタウンからグローバル・シティへ
——パプアニューギニア華人にとってのストリート経験…………… 市川 哲 303
- 第28章 『エスニック・タウン』の誕生とストリート
——ロサンゼルスのカンボジア・タウンの事例から…………… 朝日由実子 327

第 29 章 おやじといくストリート ——パリのチュニジア人たちのカフェ通いから……………	植村清加	367
--	------	-----

[ポスト社会主義状況のローカリティとストリート性]

第 30 章 ポスト社会主義のストリート ——モンゴル・ウランバートル市における都市空間の再編……	西垣 有	405
第 31 章 ハイカルチャー化するサブカルチャー？ ——ポスト社会主義モンゴルにおけるポピュラー音楽とストリート文化 ……………	島村一平	431

結論と展望——なおも、〈生きられる場〉を穿つために

[ネオリベラリズムに抗する〈生きられる文化〉の創造]

第 32 章 覚え書き・後背地論からみたストリート ……………	阿部年晴	465
第 33 章 生活の場としてのストリートのために ——流動性と恒常性の対立を超えて……………	小田 亮	489

[総括]

結章 総括——『ストリートの人類学』という 批評的エスノグラフィーの実践と理論……………	関根康正	519
---	------	-----

■ 上 巻 (SER 80)

まえがき

序論 「ストリートの人類学」の目標と射程

序論 ……………	関根康正	15
第 1 章 ケガレから都市の歩道へ ……………	関根康正	19
第 2 章 「ストリートの人類学」の提唱 ——ストリートという縁辺で人類学する ……………	関根康正	27
第 3 章 〈「ストリートの人類学」の提唱〉へのコメント ——場所性とマナー化の視点から ……………	野村雅一	45

第 1 部 問われるストリート・エスノグラフィーの方法

[都市の無意識を歩く作法——アレゴリーの力]

第 4 章 遊歩と痕跡——都市の記憶を読む技法について ……………	近森高明	53
第 5 章 ストリートからみる都市の無意識 ……………	南 博文	73

[都市ストリートへのアプローチの変遷——「歩く者」と「見る者」の間で]		
第6章	ストリートの空間論の系譜と現在 ——都市地理学を中心にして	加藤政洋 97
第7章	ストリートの現働化 ——規律—管理社会をめぐる時間地理学からの展望	加藤政洋 133
第2部 今を生きるストリート・エスノグラフィーの実践		
すれ違う権力のまなざしとストリートのまなざし		
[路上で社会を生きる野宿者たち——男と女]		
第8章	闘争空間としてのストリート ——シェルターを拒否するホームレスの日・米・英比較研究	トム・ギル 149
第9章	ストリートで生きる女性たち——女性野宿者の実践	丸山里美 185
[どこにも向かわないストリートの時空——希望なき希望]		
第10章	道草を食う ——Twan Yang “Houseboy In India” より	磯田和秀 203
第11章	村人たちとストリート ——西ティモールのアナ・ボトルにみる希望	森田良成 223
[社会環境を映し出す身体——見えにくい闘争の場所]		
第12章	ストリートに育まれる身体 ——チリ・サンチャゴ市の「貧困空間」から	内藤順子 245
第13章	リングとしてのストリート ——化粧で武装し、化粧で紛れる人々	玉置育子 271
ストリートが紡ぎ出す力——ハビトゥスとプリコラージュ		
[生きる抗争場としてのストリート——文化・信仰という開かれた資源]		
第14章	「ストリート」を経験する ——ヒンドゥー女神パフチャラー信仰とヒジュラ	國弘暁子 289
第15章	都市の歩道空間の聖化にみる抗争場としてのストリート ——南インドチェンナイ市における歩道寺院を事例に	関根康正 313
[都市ストリートの知と暴力のスタイル——創発的共同性に向けて]		
第16章	ストリートで意味を生産する ——アビジャンにおけるストリート文化の記号論	鈴木裕之 327
第17章	隠語からプロバガンダ言語へ ——シェン語のストリート性とその発展的変成	小馬 徹 349
第18章	暴力の舞台としてのストリート ——2007年～2008年ケニア・ポスト選挙暴動を事例として	松田素二 385

文 献

阿部年晴

1989 「都市と妖術——都市論への一視点」『比較文明』5: 38-53, 比較文明学会。

アガンベン, G.

2003 『ホモ・サケル——主権権力と剥き出しの生』高桑和巳訳, 以文社。

アパデュライ, A.

2004 『さまよえる近代——グローバル化の文化研究』門田健一訳, 平凡社。

Appadurai, A.

1996 *Modernity at Large: Cultural Dimensions of Globalization* (Public Worlds, V. 1). Minnesota: University of Minnesota Press.

Beck, U.

1986 *Risikogesellschaft: Auf dem Weg in eine andere Moderne*. Frankfurt: Suhrkamp Verlag. (ウルリッヒ・ベック 1998 『危険社会——新しい近代の道』東廉・伊藤美登里訳, 法政大学出版局)

Beck, U., A. Giddens and S. Lash

1994 *Reflective Modernization*. Cambridge: Polity Press. (ベック・ギデンズ・ラッシュ 1997 『再帰的近代化——近現代における政治, 伝統, 美的原理』松尾精文・小幡正敏・叶堂隆三訳, 而立書房)

ベルクソン, H.

1992 『精神のエネルギー』宇波彰訳, 第三文明社。

ベンヤミン, W.

2001 『ドイツ・ロマン主義における芸術批評の概念』浅井健二郎訳, ちくま学芸文庫。

Casey, E.

1997 *The Fate of Place: A Philosophical History*. Berkeley: University of California Press.

Crang, P.

1997 Cultural turns and the (re)constitution of economic geography. In R. Lee and J. Wills (eds.) *Geographies of Economies*, pp. 3-15, London: Arnold.

ドゥルーズ, G.

1992 『記号と事件——1972-1990年の対話』宮林寛訳, 河出書房新社。

ドゥルーズ, G./F. ガタリ

1994 (1980) 『千のプラトール』宇野邦一・小沢秋広・田中敏彦・豊崎光一・宮林寛・守中高明共訳, 河出書房新社。

2006 (1972) 『アンチ・オイディプス』(上)(下) 宇野邦一訳, 河出文庫。

ドブレ, R.

1999 『メディオロジー宣言』嶋崎正樹訳, NTT 出版。

2000 『メディオロジー入門——「伝達作用」の諸相』嶋崎正樹訳, NTT 出版。

2001 『一般メディオロジー講義』嶋崎正樹訳, NTT 出版。

Giddens, A.

1991 *Modernity and Self-Identity*. Cambridge: Polity Press. (ギデンズ, A. 2005 『モダニティと自己アイデンティティ——後期近代における自己と社会』ハーベスト社)

檜垣立哉

2001 「『差異』の差異——ドゥルーズとデリダ」2001年度日本現象学会シンポジウム「今日

- のフランス現象学』・発表原稿（於・静岡大学）(<http://wwwsoc.nii.ac.jp/paj2/>)
- 2006 『生と権力の哲学』ちくま新書。
- Holston, J.
2005 (1999) The Modernist City and the Death of the Street. In S. M. Low (ed.) *Theorizing the City*, pp. 245-276. New Jersey: Rutgers University Press.
- ホイジンガ, J.
1973 『ホモ・ルーデンス——人類文化と遊戯』高橋英夫訳, 中公文庫。
- 上山春平
1963 『弁証法の系譜』未来社。
- 樫村愛子
2007 『ネオリベリズムの精神分析——なぜ伝統や文化が求められるのか』光文社新書。
- 春日直樹
2007 『〈遅れ〉の思考——ポスト近代を生きる』東京大学出版会。
- 加藤典洋
2008 「芸文時評——生の一回性の感覚」『朝日新聞』2月27日。
- 川喜田二郎
1967 『発想法——創造性開発のために』中公新書。
- 北島敬三
2003 『PORTRAITS + PLACES』photographers' gallery。
- キットラー, F.
2006 (1986) 『グラモフォン・フィルム・タイプライター』(上)(下)石光泰夫・石光輝子訳, 筑摩書房。
- 久保田競・宮井一郎
2005 『脳から見たリハビリ治療——脳卒中の麻痺を治す新しいリハビリの考え方』講談社。
- ルフェーブル, H.
1974 『都市革命』今井成美訳, 晶文社。
- リングス, A.
2006 『何も共有していない者たちの共同体』野谷啓二訳, 洛北出版。
- マグレガー, J. M.
2000 『ヘンリー・ダーガー 非現実の王国で』小出由紀子訳, 作品社。
- メルロ＝ポンティ, M.
1982 『知覚の現象学』中島盛夫訳, 法政大学出版局。
- 港 千尋
2007 「見えない群衆」『視点・論点』(2007年7月17日放送)NHK。
- 中村雄二郎
1992 『臨床の知とは何か』岩波新書。
- ネグリ, A./M. ハート
2003 『〈帝国〉——グローバル化の世界秩序とマルチチュードの可能性』水嶋一憲・酒井隆史・浜邦彦・吉田俊実訳, 以文社。
2005 『マルチチュード——〈帝国〉時代の戦争と民主主義 (上・下)』幾島幸子訳, NHK ブックス。
- 西垣 通・石田英敬
2000 「討議・メディアオロジーとは何か——レジス・ドゥブレの思想圏」『現代思想』7月号,

pp. 40–55。

西澤見彦

1995 『隠蔽された外部——都市下層のエスノグラフィー』 彩流社。

野村雅一

2004a 「ストリート・カルチャーをめぐる」 インターネット (<http://www.minpaku.ac.jp/research/jr/04jr070.html>)

2004b 「スタイルとしての身体——Driving my Body」 関根康正編『〈都市的なるもの〉の現在——文化人類学的考察』 pp. 373–393, 東京大学出版会。

小田 亮

2003 「文化人類学からみたカルチュラル・スタディーズ——文化・民族誌・ポストコロニアル」『日本常民文化紀要』 23: 1–46。

2004 「空間としてのストリート, 場所としてのストリート」(発表原稿 2004年12月23日) (<http://www.minpaku.ac.jp/research/jr/04jr070.html>)

2006 「文化人類学とカルチュラル・スタディーズ 1, 2, 3」 綾部恒雄・桑山敬己共編『よくわかる文化人類学』 pp. 202–207, ミネルヴァ書房。

2007 「現代社会の『個人化』と親密性の変容——個の代替不可能性と共同体の行方」『日本常民文化紀要』 26: 45–77。

大澤真幸

2007 「ときの思考 33——独裁という名の民主主義」『本』 6月号, pp. 2–5。

Rose, N.

1996 Governing “Advanced” Liberal Democracies. In A. Barry, T. Osborne, and N. Rose (eds.) *Foucault and Political Reason: Liberalism, Neo-Liberalism, and Rationalities of Government*. Chicago: The University of Chicago Press.

関根康正

1989 *Theories of Pollution: Theoretical Perspective and Practice in a South Indian Village* (Monumenta Serindica No. 21). Tokyo: Institute for the Study of Languages and Cultures of Asia and Africa.

1993a 「『点で囲う』風景と『線で囲う』風景——南インド・タミル人の空間認識から」 杉本尚次・中村泰三共編『変動する現代世界のなりたち——地域・民族・文化』 pp. 43–61, 見洋書房。

1993b 「住居のコスモロジーとイデオロギーに関する動態的研究——南インドと日本を事例として」『住宅総合研究財団研究年報』 19: 89–103, (財)住宅総合研究財団。

1995 『ケガレの人類学：南インド・ハリジャンの生活世界』 東京大学出版会

1999 Rethinking the Ambiguous Character of Hindu Women. In M. Tanaka and M. Tachikawa (eds.) *Living with Shakti: Gender, Sexuality and Religion in South Asia* (Senri Ethnological Studies 50), pp. 221–242. Osaka: National Museum of Ethnology.

2001 「他者を自分のように語れないか? ——異文化理解から他者了解へ」 杉島敬志編『人類学的実践の再構築』 pp. 322–354, 世界思想社。

2002 「『宗教空間』としての歩道空間——チェンナイ市 1999年～2001年の『歩道寺院』の盛衰から見える宗教景観」 関根康正編『南アジア地域における経済自由化と『宗教空間』の変容に関する人類学的研究——生活宗教に探る「宗教対立」解消の方途』(1999～2001年度科学研究費補助金基盤研究 (A) (2) 研究成果報告書) pp. 111–138, 日本女子大学。

- 2002 *Anthropology of Untouchability: "Impurity" and "Pollution" in Tamil Society* (Senri Ethnological Studies 61). Osaka: National Museum of Ethnology.
- 2004a 『〈都市的なるもの〉の現在——文化人類学的考察』東京大学出版会。
- 2004b 「都市のヘテロトポロジー——南インド・チェンナイ（マドラス）市の歩道空間から」 関根康正編『〈都市的なるもの〉の現在——文化人類学的考察』pp.472-512, 東京大学出版会。
- 2006 『宗教紛争と差別の人類学』世界思想社。
- 2007a 「ストリートという縁辺で人類学する——『ストリートの人類学』の提唱」『民博通信』116: 2-6。
- 2007b 「『資本としての知識』から『資源としての知識』への視点の移行がもたらすもの」C. ダニエルズ編『知識資源の陰と陽』pp. 219-248, 弘文堂。
- 関根康正・新谷尚紀共編
- 2007 『排除する社会・受容する社会——現代ケガレ論』吉川弘文館。
- セネット, R.
- 1975 『無秩序の活用——都市コミュニティの理論』中央公論社。
- 1991 『公共性の喪失』北川克彦・高階悟訳, 晶文社。
- Low, S. M. (ed.)
- 2005 (1999) *Theorizing the City*. New Jersey: Rutgers University Press.
- 白石嘉治・大野英士共編
- 2005 『ネオリベ現代生活批判序説』新評論。
- Sreekanth, G.
- 2008 *The Name is Rajinikanth*. New Delhi: Om Books International.
- Strahtern, M.
- 2000 New Accountabilities: Anthropological Studies in Accountability, Ethics and the Academy. In M. Strathern (ed.) *Audit Cultures: Anthropological Studies in Accountability, Ethics and the Academy*. London and New York: Routledge.
- 戸田山和久・柴田正良・服部裕幸・美濃正共編
- 2003 『心の科学と哲学——コネクショニズムの可能性』昭和堂。

「ストリートの人類学」執筆者一覧 (論文掲載順)

- 関根 康正 (せきね やすまさ), 日本女子大学・人間社会学部・教授
野村 雅一 (のむら まさいち), 総合研究大学院大学・副学長
近森 高明 (ちかもり たかあき), 日本女子大学・人間社会学部・専任講師
南 博文 (みなみ ひろふみ), 九州大学大学院・人間環境学研究院・教授
加藤 政洋 (かとう まさひろ), 立命館大学・文学部・准教授
GILL, Tom (ぎる とむ), 明治学院大学・国際学部・教授
丸山 里美 (まるやま さとみ), 日本学術振興会特別研究員 PD/東洋大学・社会学部
磯田 和秀 (いそだ かずひで), 成城大学・民俗学研究所・研究員
森田 良成 (もりた よしなり), 大阪大学大学院人間科学研究科・日本学術振興会特別研究員 DC
内藤 順子 (ないとう じゅんこ), 日本学術振興会特別研究員 PD/日本女子大学・人間社会学部
玉置 育子 (たまき やすこ), 大阪樟蔭女子大学・学芸学部・専任講師
植村 清加 (うえむら さやか), 成城大学・民俗学研究所・研究員
國弘 暁子 (くにひろ あきこ), お茶の水女子大学大学院・人間文化創成科学研究所・研究員
鈴木 裕之 (すずき ひろゆき), 国士舘大学・法学部・教授
小馬 徹 (こんま とおる), 神奈川大学・人間科学部・教授
松田 素二 (まつだ もとじ), 京都大学大学院・文学研究科・教授
竹沢 尚一郎 (たけざわ しょういちろう), 国立民族学博物館・民族文化研究部・教授
KLEINSCHMIDT, Harald (くらいんしゅみット はらると), 筑波大学大学院・社会科学系・教授
妹尾 達彦 (せお たつひこ), 中央大学・文学部・教授
鈴木 晋介 (すずき しんすけ), 国立民族学博物館・外来研究員
山田 香織 (やまだ かおり), 在ドイツ日本国大使館・広報文化班・二等書記官
棚橋 訓 (たなはし さとし), お茶の水女子大学大学院・人間文化創成科学研究所・教授
松本 博之 (まつもと ひろゆき), 奈良女子大学・文学部・教授
市川 哲 (いちかわ てつ), 国立民族学博物館・外来研究員
朝日 由実子 (あさひ ゆみこ), 上智大学大学院・外国語学部・博士課程
西垣 有 (にしがき ゆう), 大阪大学大学院・人間科学研究科・日本学術振興会特別研究員 DC
島村 一平 (しまむら いっぺい), 滋賀県立大学・人間文化学部・専任講師
阿部 年晴 (あべ としはる), 埼玉大学・名誉教授
小田 亮 (おだ まこと), 成城大学・文芸学部・教授

Senri Ethnological Reports (最新号)

- No.80 ストリートの人類学 上巻 (2009; 関根康正編; 日本語)
- No.79 A Lexicon of the rGyalrong bTsanlha Dialect: rGyalrong-Chinese-Tibetan-English (Bon Studies 12; 2009; bTsan lha Ngag dbang Tshul khrim, eds. Yasuhiko Nagano, Marielle Prins; 英語, チベット語, 中国語, 日本語)
- No.78 ポスト社会主義人類学の射程 (2009; 高倉浩樹・佐々木史郎編; 日本語)
- No.77 *Transnational Migration in East Asia: Japan in a Comparative Focus* (2008; eds. Shinji Yamashita, Makito Minami, David W. Hanes, Jerry S. Eades; 英語)
- No.76 *A Lexicon of Zhangzhung and Bonpo Terms* (2008; eds. Yasuhiko Nagano, Samten G. Karmay; 英語・チベット語)
- No.75 А.Д.Симуков Труды о Монголии и для Монголии, Том3(2) (2008; Юки Коная, Санжаасурэнгийн Баяраа, Ичинхорлоогийн Лхагвасурэн (小長谷有紀・サンジャーレン・バヤラー・イチンホルロー・ルハグワスレン) 編; ロシア語)
- No.74 А.Д.Симуков Труды о Монголии и для Монголии, Том3(1) (2008; Юки Коная, Санжаасурэнгийн Баяраа, Ичинхорлоогийн Лхагвасурэн (小長谷有紀・サンジャーレン・バヤラー・イチンホルロー・ルハグワスレン) 編; ロシア語)
- No.73 国立民族学博物館研究フォーラム 2004年インド洋地震津波災害被災地の現状と復興への課題 (2007; 林勲男編; 日本語)
- No.72 XX зууны Монголчууд /2/ – Социалист Монголын улс төрийн амьдрал (2007; И. Лхагвасурэн Коная Юки (2007; Ичинホルローギーン・ルハグワスレン・小長谷有紀) 編; モンゴル語)
- No.71 モンゴル国における20世紀(2)―社会主義を闘った人びとの証言 (2007; 小長谷有紀編; 日本語)
- No.70 ベトナムの黒タイ首領一族の系譜文書 (2007; 櫻永真佐夫・カム・チョン; 日本語・黒タイ語)
- No.69 グローバル化と韓国社会―その内と外 (2007; 朝倉敏夫・岡田浩樹編; 日本語)
- No.68 モノに見る生活文化とその時代に関する研究―国立民族学博物館所蔵の大村しげコレクションを通して― (2007; 横川公子・笹原亮二編; 日本語)
- No.67 А.Д.Симуков Труды о Монголии и для Монголии, Том2 (2007; Юки Коная, Санжаасурэнгийн Баяраа, Ичинхорлоогийн Лхагвасурэн (小長谷有紀・サンジャーレン・バヤラー・イチンホルロー・ルハグワスレン); ロシア語)

[国立民族学博物館刊行物審査委員会]

松園万亀雄 館長
田村 克己 副館長
松山 利夫 民族社会研究部
西尾 哲夫 民族文化研究部
関 雄二 先端人類科学研究部
小長谷有紀 研究戦略センター (研究出版委員長)
吉田 憲司 文化資源研究センター

平成 21 年 3 月 31 日発行

国立民族学博物館調査報告 81

編者 関根康正

発行 人間文化研究機構
国立民族学博物館
〒565-8511 吹田市千里万博公園10-1
TEL. 06(6876)2151 (代表)

印刷 中西印刷株式会社
〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入
TEL. 075(441)3155 (代表)
